

小学校生活科学学習指導案

- 1 小单元名 「いえの しごとを しらべよう」(8時間) 第1学年
 - 2 单元について
 - 3 单元の目標
 - 4 单元の評価規準と小单元における具体的評価規準
 - 5 指導と評価の計画
- (省略)

6 本時の学習指導 (本時 2 / 8)

(1) 目標

- ・家にはいろいろな仕事があり、役割があることに気付いている。

【知識及び技能】

- ・自分の家の仕事について話し合い、自分も挑戦したいという意欲をもつ。

【学びに向かう力、人間性等】

<ヤングケアラーの扱いについて>

本单元では、家庭生活に関わる活動や、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかり、積極的に自分の役割を果たそうとしたり、自分を支えてくれている家族に感謝したりしながら意欲的に生活をしていこうとすることをねらいとしている。

しかし、小学校低学年におけるヤングケアラーの児童は、その自覚がないまま、家族のために「お手伝い」と称して、発達段階にそぐわない家事や家族の世話を日常的に担っている可能性がある。

そこで、本時の授業を行うにあたっては、「家族の一員として役割を果たしたい」「いろいろな家の仕事に挑戦したい」という児童の意欲を尊重しつつ、家の仕事に取り組むときには、児童自身の食事、睡眠、学習、遊びといった基本的な生活習慣に影響が表れないように行うことの大切さも指導する。また本单元を行うにあたっては、家庭の協力が不可欠であるが、児童を取り巻く家庭環境も多様であるため、家の仕事を実践したり、意見交流させたりする際には十分に配慮し、必要があれば児童に個別に声掛けをしたり、話を聞いたりする。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いえの人はどんなしごとをしているか、しょうかいしよう。</p> </div>	<p>○活動内容について把握し、活動の方向性について見通しておく。</p> <p>○教科書に掲載されている、家の仕事の様子の写真を見せながら、前時の活動を想起させる。</p>	3
<p>2 自分の家では、誰がどんな仕事をしているのかをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕の家では、朝ごはんはお母さんが作って、夜はおばあちゃんが作っているよ。 ・お風呂掃除は私とお兄ちゃんがするよ。 ・お父さんが弟を保育園に送っていくよ。 	<p>○前時に児童が発表した家の仕事を短冊にまとめておいたものを掲示し、思い出せるようにする。</p> <p>●家にはいろいろな仕事があり、役割があることに気付いている。</p> <p>【知・技】(ワークシート)</p> <p>○ワークシートの記述から、発達段階にそぐわない仕事を日常的に行っている様子が見られた場合は、個別に声掛けをする。</p>	15
<p>3 カードにまとめたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家によって、仕事もやる人も違っているね。 ・大人がたくさん仕事をしているね。 ・子どもがしている仕事もあるんだな。私もできるかな。 	<p>○仕事をやっている人ごとに色を分けて板書し、家族に多くのことをしてもらっていることに気付かせる。</p> <p>○家庭によって、やる仕事や役割が違うことに目を向けさせる。</p> <p>●友達との意見交流を通して、自分も家の仕事に挑戦したいという意欲をもつ。【態】(発言・観察)</p>	17
<p>4 本時の活動を振り返り、自分が挑戦してみたい仕事の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達がしている仕事を聞いた 	<p>○児童の意欲を称賛する。</p> <p>○次時は家の仕事に挑戦する計画を立てることを確認する。</p> <p>○家の人にやってもよい仕事を聞</p>	10

<p>ら、僕もやってみたくなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お料理をしてみたいな。家の人に聞いてみよう。 	<p>いた上で計画を立てることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掲示物の絵を見せながら、家の仕事を選ぶ上での注意事項を確認する。 ・ガスや包丁を使うなど危険を伴う仕事の場合、大人と一緒にいるときに挑戦する。家族に心配をかけてしまう仕事はしない。 ・自分の食事、睡眠、学習、遊び等の時間が無くなるほど、家の仕事をする必要はない。 ○自分の生活と家族のための仕事をバランスよく行うことの大切さに気付かせる。 ○家の仕事に挑戦したり、選んだりする上で不安があるときには、教師に相談し一緒に考えられることを伝える。 	
---------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

掲示物

